

説 教

聖日礼拝 北浜チャーチ

2024年3月3日(日)

黒田 禎一郎

主 題：「大は小からスタートです！」

—神の国—

テキスト：マルコの福音書6章32-44節

はじめに

・おはようございます。

- ・皆さん！ 超有名人がやって来ることが分かると、多数の人々は関心をもって集まります。例えば、私のドイツ時代にこのようなことがありました。
- ・それは私の神学校時代に住んでいた町でした。人口は多分、千人いるかぐらいの実に小さな町でした（私は好きでしたが）。そこに米国からの宇宙飛行士 James Erwin 氏がやって来たのでした。
- ・会場は町の教会でしたが、あまりに多数の人々が集まってきたため（近隣の村々からも集まった）、人々は入れきれず、講演会は2回に分けて行われました。その時の感動は、今も鮮明に記憶しています。
- ・同じように、今から約2千年前、場所は現在のイスラエルでした。イエスの元に、人々が続々と集まってきました。
- 6:33 ところが、多くの人々が、彼らが出て行くのを見てそれと気づき、どの町からもそこへ徒歩で駆けつけて、彼らよりも先に着いた。
- ・イエスは集まった人々をご覧になりました。
- 6:34 イエスは舟から上がって、大勢の群衆をご覧になった。彼らが羊飼いのいない羊の群れのようにであったので、イエスは彼らを深くあわれみ、多くのことを教え始められた。
- ・時刻は夕方になりました。イエスの弟子たちは次のように言いました。
- 6:35 そのうちに、すでに遅い時刻になったので、弟子たちはイエスのところに来て言った。「ここは人里離れたところで、もう遅い時刻になりました。
- 6:36 皆を解散させてください。そうすれば、周りの里や村に行って、自分たちで食べる物を買うことができるでしょう。」
- ・イエスは、そこでふしぎなことを言われました。
- 6:37 すると、イエスは答えられた。「あなたがたが、あの人たちに食べる物をあげなさい。」
- ・弟子たちの反応

- 6:37 弟子たちは言った。「私たちが出かけに行って、二百デナリのパンを買い、彼らに食べさせるのですか。」（現実的）
- そこでイエスは次のように指示されました。
- 6:38 イエスは彼らに言われた。「パンはいくつありますか。行って見て来なさい。」彼らは確かめて来て言った。「五つです。それに魚が二匹あります。
- 6:39 するとイエスは、皆を組に分けて青草の上に座らせるように、弟子たちに命じられた。
- 6:40 人々は、百人ずつ、あるいは五十人ずつまとまって座った。
- 6:41 イエスは五つのパンと二匹の魚を取り、天を見上げて神をほめたたえ、パンを裂き、そして人々に配るように弟子たちにお与えになった。また、二匹の魚も皆に分けられた。
- 6:42 彼らはみな、食べて満腹した。
- 6:43 そして、パン切れを十二のかごいっぱい集め、魚の残りも集めた。
- 6:44 パンを食べたのは、男が五千人であった。

- 皆さん。ここで、まず普通起こり得ない奇跡が起こりました。それは男だけでも5千人（女、子どもを合わせると何人か？）のお腹を、イエスは満腹にさせたことです。イエスの「あわれみ」と超自然的な「力」のしるしでした。
- イエスは、この信じられない奇跡で、いったい何を教えようとされたのでしょうか。⇒「**神の国**」の幸いを見るように。
- 神の国とは、どのようなところでしょうか。イエスは福音書の中で、神の国について何度もお語りになりましたね。ある時は例話で説明され、ある時はしるしで現わされました。今日の箇所は後者です。
- 私たちは、イエスが教えられた「**神の国**」を説明することは簡単ではありません。しかし、今日のテキストから2点考えてみましょう。

大切なポイント

1. 神の国には豊かさがある

- イエスが群集に「神の国」を現された場所は、「人里離れたところで」でした。そのような場所で、イエスは6:37「あなたがたが、あの人たちに食べる物をあげなさい。」と弟子たちに言われました。それはどう考えても、まず無理ではないでしょうか。弟子たちの応答は、
- 6:37 弟子たちは言った。「私たちが出かけに行って、二百デナリのパンを買い、彼らに食べさせるのですか。」（現実的）
- 1デナリは、当時の労働者の1日の収入に相当します。したがって200日分。

「**人里離れたところで**」、それだけのパンを供給することはまず不可能でしょう（常識）。イエスは、それをご存知でなかったのでしょうか。いいえ、よく分かっておられたはずです。

・ **では、なぜこのような指示をされたのでしょうか？**

⇒ **彼らの「信仰」を問われました。**

弟子たちはその前に、イエスから弟子として病人を癒し、悪霊を追い出す「権威」を授かっていました。それらは信仰による「わざ」でした。イエスはここで、大群衆を前にその実践を問われ（or 求められ）ました。しかし、彼らにはそこまでの信仰はありませんでした。

・そこで、イエスは弟子と群衆の前で信仰の実践を現されました。

- ① 五つパンと二匹の魚を取り
- ② 天を見上げて神に感謝をささげ
- ③ パンを裂いて、弟子たち配膳させた

・ イエスがされたのは、これだけでした。 5つのパンと二匹の魚が、どのように群衆（男だけでも5千人）に、配られたかは記されてはいません（他の福音書でも同じ）。

・ 私たちは普通考えて、いったいどのようにパンと魚が倍増したか謎であり、知りたく思いますね。しかし、それは一切記されていません。なぜ、でしょうか……。私は心静めて考えていると、それで良いのだと思いました。

- ① 神の「わざ」は、そのような方法（手段）が分からないことがある
- ② 神の国には不足（欠乏）はなく、豊かさがある（事実）

・ 私はこのパンと魚の奇跡は、信仰の実践によって現わされた神の「わざ」であると信じています。もし仮に、倍増の手法が記されていたとするならば、きっと模倣する人たちも現れたことでしょう。しかし、神の「わざ」が現れる「神の国」は、そのようなものではありません。

・ そして「神の国」の豊かさは、人知をはるかに超えるものです。

では、「神の国」の豊かさにあずかるには、どうすればよいのでしょうか。

⇒ 「信 仰」

イエスが弟子に「**6:37 あなたがたが、あの人たちに食べる物をあげなさい。**」と言われたのは、弟子たちに「神の国」の現実を経験させるためではなかったか、と思います。

・ では、このテキストから、私たち何を見ることができるのでしょうか。

⇒ 「信仰」です。

2. 神の国には「あわれみ」がある

1) イエスの群衆への視点

6:34 イエスは舟から上がって、大勢の群衆をご覧になった。彼らが羊飼いのいない羊の群れのような姿だったので、イエスは彼らを深くあわれみ、多くのことを教え始められた。

- 聖書の神は、確かにあわれみの神です。私たちは罪に陥り、死の運命しかなかったものでした。ただ、神のあわれみによって選ばれたものです。私たちを裁く代わりに、天父神は御子イエスを遣わし、救いの道を開いてくださいました。
- イエスは、大勢の群衆が羊飼いのいない羊の群れのような姿を、ご覧になりました。イエスは彼らの必要を知っておられました。私たちの神は、私たちの必要を知っておられます。イエスは言われました。マタイ福音書

6:31 ですから、何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようかと言って、心配しなくてよいのです。

6:32 これらのものはすべて、異邦人が切に求めているものです。あなたがたにこれらのものすべてが必要であることは、あなたがたの天の父が知っておられます。

6:33 まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。

- イエスの群衆への視点、私たちはイエス目がどこに向いていたか覚えたいと思います。信仰が養われるのは、試練や困難、失望、落胆し自力ではどうすることも出来ないようなときに、試される者です。

2) イエスは「あわれみの人」でした

- イエスの元に来た人々は、どのような人でしたでしょうか。病人、貧しい人、疲れた人、生きる力を失なった弱った人などでした。時には、イエスは不治の病気であった重い皮膚病（ツアラト）を患った人たちを、おことば一つで癒されました。イエスは神の国の権威を持つお方であることを、現されました。
- 生まれつきの盲人バルテマイは、イエスに「主よ。私をあわれんでください」と叫びました。イエスは彼に触れて不自由な目を癒やされました。
- イエスの生涯には「あわれみ」が満ちていました。そして次のように言われました。

11:28 すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。

『例 話』

デニスさんの証し。

船越宣教師から(2024. 2. 15)

- 日本人宣教師である船越師は、ウクライナのファンタナ病院に入院中のデニスさんを、初めて訪問しました。彼はウクライナ戦争で両足を失いました。「な

ぜなのだろうか。自分は健康な状態で帰還できるか、あるいは戦場で戦死するか、その二択しか考えていなかった。まさか両足を失った状態で戦線を離れることになるとは考えていなかった」と語ります。

- 彼は、ザポロジエ方面での戦闘に参加していました。彼らはロシアのある陣地を制圧しましたが、そこでロシア軍ドローンによる激しい「手榴弾投下攻撃」を受けました。デニスさんの部隊の数名の兵士は即戦死し、デニスさんも足に大怪我を負った状態で塹壕に飛び込みました。しかし、そこへ次の手榴弾が落とされ、両足が完全に機能不全になってしまいました。
- 立つこともできない状態、しかも周囲の状況がまったく把握できない中で、3日が過ぎました。脱水状態に陥り、夏だったこともあり、意識が朦朧とし、幻覚症状が出てくるようになりました。その中で、デニスさんは(神への信仰を持っているわけではありませんでしたが)神に祈った、と言います。「神さま、どうか水をお与えください。」しばらくして、雨が降りはじめました。
- そして、ロシア軍戦車によって破壊された「掘建小屋」に張ってあったビニール材が垂れ下がっている部分に、雨水が溜まり始めているのに気づきました。這いずりながらそこに行き、溜まっている水を飲みました。その水を飲んだおかげで彼は生きながらえることができたと言います。
- しかし、彼の両足はどんどん膿み、ものすごい悪臭を放つようになりました。あの手榴弾の攻撃を受けてから10日が過ぎていました。その日、向こうから兵士たちが近づいてくるのが分かりました。ロシア兵に見つかる。殺される。もう覚悟を決めました。
- すると、なんとそれは別の部隊のウクライナ兵士たちだったのです。彼は神に生かされたと思ったと言います。彼は救出されました。彼の足に巻かれた止血帯は約240時間その足に巻かれたままで、臓器不全にならなかったのはまさに奇跡だと、後に彼の治療を担当した医師は驚いていたそうです。
- 病院で両足が切除されましたが、一命を取りとめました。彼は「リハビリをして、足がない状態でもできることを見つけたい。そして早く戦線に戻り、仲間たちを助けたい」と言っています。物静かな語り方ですが、そのうちに秘められた彼の意思の強さに圧倒されました。彼は神の存在は、もはや疑いようがない、と言っています。
- デニスさんは「九死に一生を得た人」です。神のあわれみを受けた人です。特別であったでしょう。皆さん。私たちもイエスの「神の国」に迎えられたも



のではありませんか。

- イエスは、「神の国」はからし種のようなと言われました。小さなからし種で始まる信仰、⇒それは何という幸いな「神の国」に導いてくれるものでしょうか。神の国にはあわれみが満ちています。
- 神は今日も、神を信じ神とともに歩む者に「神の国」を現してくださいます。バプテスマのヨハネはイエスが来られた時、次のように言いました。

マルコ 1 章

1 : 15 時が満ち、神の国が近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。

ま と め

主 題：「大は小からスタートです！」

—神の国—

テキスト：マルコの福音書 6 章 3 2-4 4 節

- イエスは「5つのパンと2匹の魚」で、群衆にお腹いっぱいになるほど増幅し、祝福を与えられました。そこで神の国の現実を現されました。イエスの存在そのものは、あわれみに富む神の国でした。
- イエスの生涯は「あわれみ」に満ちていました。私達も、イエスのあわれみによって救われたものです。それは神の国を味わう者とされました。信仰の実践です。
- 最後に次のみことばをお読みします。

6:37 すると、イエスは答えられた。「あなたがたが、あの人たちに食べる物をあげなさい。」

私達は、今週も神を信頼し信仰を働かせて歩みましょう。

* God bless you!